

まもる一む福岡 の「交流・活動の支援」をお伝えする

環境活動 NEWS 6号

まもる一む福岡は、NPO や市民団体などによる環境活動を応援するため、交流やネットワークの場づくり、情報発信などの取組みを行っています。「環境活動 NEWS 6号」では、2021 年度後半に実施した交流イベントの様子等をご紹介します。

生きものと私たちのくらしトーク・カフェ 第3回
「動物を描くという表現」

ふくおか環境活動発表会
「森で育つ・森で学ぶ」

まもる一む福岡アドバイザーコラム
「まもる一む福岡での生体『カブトガニ』展示」

特別講座
「砂浜の貝殻ウォッチング」

生きものと私たちのくらしトーク・カフェ 第3回

2021年11月21日(日)

「動物を描くという表現」

ゲスト：渡辺 真希子 (アド) さん (画家)



身近なテーマから生物多様性について考える「生きものと私たちのくらしトーク・カフェ」。2021 年度3回目は、ゲストに画家のアドさん（渡辺真希子さん）をお迎えし、「動物を描くという表現」というテーマでお話いただきました。会場には作品を多数お持ちいただき、描いた時のエピソード等を交えながら紹介していただきました。

■ たしかに「いる」と伝えられる

学生時代に野生動物の保全を志してアフリカに滞在し、そこで複雑な現実と直面したアドさん。今の自分では何もできないことに気づきますが、動物の絵を描くと現地の人々が喜んでくれたことをきっかけに、「絵を描くことでできることがあるんじゃないか」と思うようになりました。



アドさんの初期の作品
(スライドより)

写真や映像の中から切り取ったモチーフではなく、実際にその動物と対峙して感じた実体験をもとに描くスタイルのアドさん。絵を描くことによって、遠くの世界であっても確かにその生きものが「いる」ことを伝えられると言います。初期はアフリカの動物ばかりを描いていましたが、徐々に日本の生きものを描くようになり、最近では保護猫との関わりから「家にいるネコ」も描きます。描かれた動物たちは、どれも私たちにになにかを訴えかけているように感じられました。

渡辺 真希子さん



■ 参加者の反応

環境問題や命に関わる重いテーマも話題となりましたが、アドさんの人柄で、あたたかく穏やかな時間になりました。会場とオンラインの参加者からは、「若い人のエネルギー、動物を見る目の温かさ、人のつながりの大切さ、などを改めて感じました」「生きものへの想いを、得意な絵で多くの人へ伝えるアドさん、素敵です」などの感想をいただきました。丁寧に想いを語ってくださったアドさん、貴重なお話ありがとうございました。

「森で育つ・森で学ぶ」

ゲスト：NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター

市内発表団体：まちなか里山事業、愛宕の森と緑を守る会、このす山であそぼう会、海の中道海浜公園 環境共生の森、油山市民の森 森を育てる会

福岡市内で森の手入れや森あそび等に取り組む5つの環境活動団体に加え、ゲストに長野県のNPO法人グリーンウッド自然体験教育センターさんをお迎えして、会場とオンラインで活動を紹介していただきました。

まちなか里山事業

活動地 南公園、浄水緑地、七隈緑地など7か所

NPO 法人グリーンシティ福岡、福岡市動植物園、福岡市みどり運営課による共働事業として、福岡市内の特別緑地保全地区で活動しています。本事業をきっかけに、地元の方々を中心とした「リ・リーフ」(浄水緑地)、「桜坂里山会」(南公園)、「南公園森の倶楽部(仮)」(南公園)などの新たな市民団体が発足され、活動の輪が広がっているそうです。



志賀壮史さん

愛宕の森と緑を守る会

活動地 愛宕山(福岡市西区)

愛宕山で「私自身が遊びながら育っている」とおっしゃる山崎さん。最近、ツクシヤマザクラを軸とした愛宕サクラの森づくり、里山の生きものの保全、愛宕の森の散策路の設置という3つのテーマを中心に活動しているそうです。



山崎喜代子さん

このす山であそぼう会

活動地 鴻巣山(福岡市南区・中央区・城南区)

月に1度、親子で「お山遊び」をする活動をしています。自然の中で子どもも大人ものんびりと過ごし、スタッフは子どもたちのペースを大切に、できる限り自主性を尊重しています。様々な自然遊びはもちろん、ただ森を歩くことも大切にしたいという思いがあるそうです。



大野敦子さん

海の中道海浜公園 環境共生の森

活動地 海の中道海浜公園(福岡市東区)

環境共生の森の愛称は「みらいの森」。何もなかった造成地に、50年かけて森を創る取り組みを市民協働で2009年から続けています。2種類のボランティアをうまく取り入れ、多くの人が関わる森づくりをされています。



浅沼義行さん

油山市民の森 森を育てる会

活動地 油山(福岡市南区)

森の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成、交流を行うことを目的として活動しています。会の活動は今年で27年目。子どもたちが異世代と交流しながら、森の保全活動に楽しく関わる様子を丁寧に話してくださいました。



鎌田隆さん

NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター

活動地 長野県下伊那郡泰草村

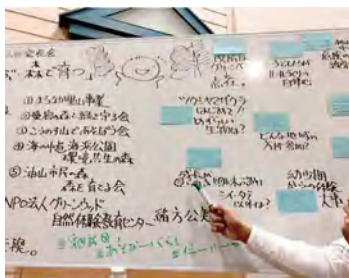
長野県の泰草村にある NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センターは設立 36 年目。幼児から大人までの教育事業を展開する施設です。センターの職員で福岡市出身の緒方公美さんがオンラインで活動を紹介してくださいました。

キーワードは「ねっこ教育」。感じる心、生み出す心、楽しむ心という自立して生きていくための「ねっこ」となる3つの心を育てることを大切にしています。そのなかでも根幹事業であるのが「暮らしの学校だ

いだらぼっち」。全国の小学4年生から中学3年生が1年間親元を離れ、共同生活しながら村の学校へ通います。決められたプログラムはなく、子どもたち自身が話し合って何をして過ごすかを決めているそうです。五右衛門風呂用の薪【左写真】や調理場【右写真】など、緒方さんが歩きながら施設の中を丁寧に紹介してくださいました。



緒方公美さん



発表会の最後には、遊びの中での安全管理の方法や活動の運営体制についてなど、参加者からたくさんの質問や感想がありました。子どもの自主性を尊重する関わり方の工夫、活動を継続していくことで遊びが暮らしに変化していくこと、自然の中に浸る時間を保障する場の大切さなど、森での活動をより魅力的にするための視点について情報を共有しました。「活動内容が濃くおもしろかったので聴き足りなかったぐらい。とても充実した時間でした。」との感想をいただきました。

まもる一む福岡アドバイザー
コラム第2回 高田 浩二

「まもる一む福岡での生体「カブトガニ」展示」



「まもる一む福岡」は、環境や保健について子どもから大人まで体験しながら学べる施設として、平成9年5月に開館している。この施設では設立当初よりカブトガニの生きた成体を飼育展示してきた。

ところで皆さんはなぜ、ここにカブトガニがいるかご存じでしょうか。カブトガニは世界に4種類がいるが、日本には1種のみで瀬戸内海や九州北部沿岸の干潟周辺の限られた水域にしかすんでいない。中でも約160万人が暮らす政令指定都市「福岡市」の西区今津の干潟に産卵地が、博多湾の能古島周辺の海域に亜成体と成体が生息していることを知っている方は少ない。この稿の筆者である小職は、昭和55年の大分マリンパレス勤務時代、そして平成元年にオープンしたマリ

ンワールド海の中道に福岡へ移動しても、地域の海域のカブトガニ調査研究をしており、ここ「まもる一む福岡」での飼育展示や、夏季の市民講座でも「カブトガニ教室」を開催している。

カブトガニの生息数は、全国的に干潟の環境の悪化など様々な要因で年々減少の一途をたどっている。ぜひ、生きたカブトガニの姿を見ることで、数億年前から進化することなく生きてきた希少な生物を通して、地球の環境や暮らし方を考える機会にいただきたい。



海と博物館研究所 高田浩二

「砂浜の貝殻ウォッチング」

講師：印部 善弘さん（博多湾生きものネットワーク）



特別講座はオンラインでの開催となりました。長垂海浜公園（西区）の砂浜からリアルタイムで貝殻を拾い歩き、講師の博多湾生きものネットワークの印部善弘さんにオンラインで解説していただきました。印部さんは貝の種類にとっても詳しいだけでなく、中身を食べて味わったり、貝殻でアクセサリーを作ったり、さまざまな貝の楽しみ方を熟知されています。

■ 砂浜の貝殻を次々と発見！

砂浜を少し歩くだけで、すぐに貝殻は見つかりました。欠けた貝殻でも、すぐに種類を推定してくださる印部さん。左上の写真の、縁がピンク色の貝殻は博多湾では珍しい種類で、準絶滅危惧種の「クチベニガイ」とのこと。貴重な種ですが、長垂海浜公園のある今宿や海の中道海浜公園の海岸にはわりとよく落ちていそうです。ほかにも貝殻を見つけるたび、解説していただきました。たとえば、縦にスジが32本ある「サルボウ」という白い貝。よく似たアカガイはスジが42本で、スジの数が違うのだそうです。ピンク色のサクラガイの仲間は美しく、実体顕微鏡を使って縞模様までくっきりとお伝えすることができました！

■ 美味しい食べ方の紹介も

このほか印部さんからは、お持ちのさまざまな貝殻の写真をはじめ、貝料理、アクセサリーの作り方などもご紹介いただきました。参加者のみなさんからは、各地で採集した貝殻について種類を教えてくださいという質問が続出！

印部さんの貝に関する幅広い知識を活かした、内容盛りだくさんの楽しい時間になりました。



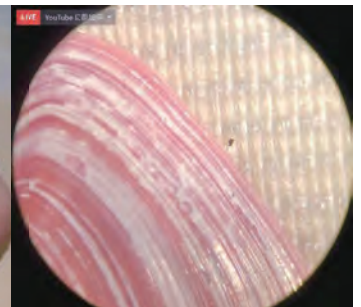
バカガイと思しき破片



カガミガイと思しき破片



スジが32本あるサルボウ



サクラガイの仲間の縞模様

福岡市保健環境学習室「まもる一む福岡」では、NPOや市民団体などによる環境活動を応援するための交流やネットワークの場づくり、情報発信などの取り組みを行なっています。環境活動に関心のある皆さん、活動に取り組むNPO等の皆さん、ぜひお気軽にご相談・ご参加ください。



環境活動交流支援の取り組み

ふくおか環境連絡交流会
ふくおか環境活動発表会

特別講座
生きものと私たちのくらしトーク・カフェ

情報の収集・発信

福岡市保健環境学習室

まもる一む福岡
MAMOROOM FUKUOKA

〒810-0065 福岡市中央区地行浜2丁目1-34

☎ 092-831-0669

開館 10:00～17:00

休館日は月曜日・火曜日（休日の場合はその直後の平日）
年末年始（12月28日～1月4日）